

# 発電所H4北タンクエリアの内堰から 外堰内への雨水の漏えい他について

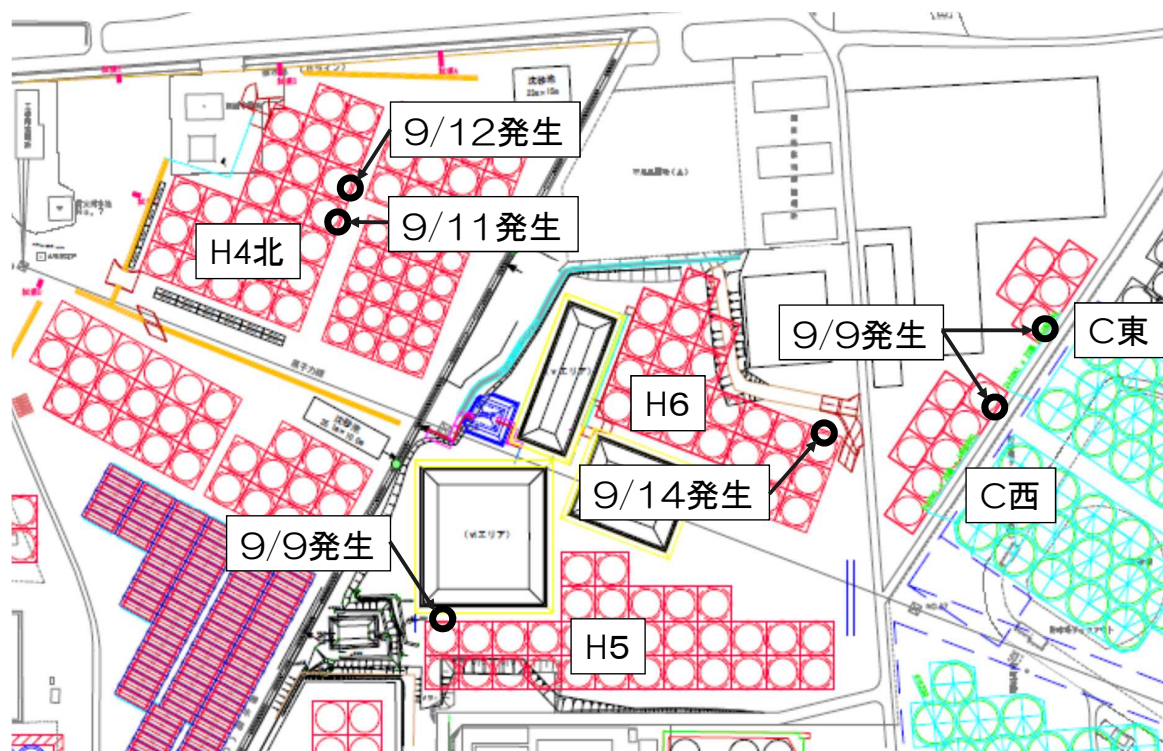
2015年10月1日  
東京電力株式会社



無断複製・転載禁止 東京電力株式会社

1

## 1. 漏えい発生箇所



無断複製・転載禁止 東京電力株式会社

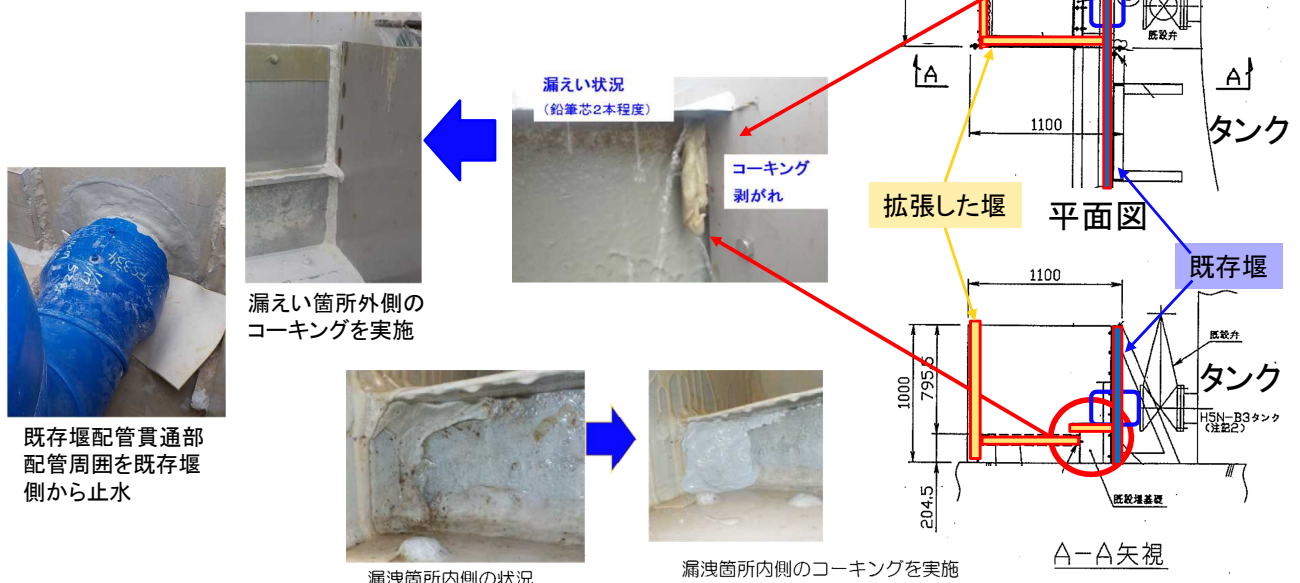
2

## 2. 漏えい状況と対応

発生エリア	発見日時	発生箇所 漏えい量 サンプリング結果	応急措置状況	当該箇所の 恒久措置	完了予定
H5	9/9 10:40	<ul style="list-style-type: none"> <li>配管周りの堰繋ぎ目</li> <li>漏えい量：約63L程度</li> <li>全β：13Bq/L</li> <li>Cs134：ND</li> <li>Cs137：ND</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>H5エリア外堰止水弁「閉」</li> <li>漏えい箇所へ土のう、ドレンパン設置、水回収</li> <li>止水材による止水処理</li> <li>H5堰内水の移送</li> </ul>	コーキングおよび既存堰の貫通部も止水処理	～9/14
C	9/9 16:15	<ul style="list-style-type: none"> <li>配管貫通部(C東,C西)</li> <li>漏えい量：3200L(最大推定)</li> <li>全β：44Bq/L</li> <li>Cs134：ND</li> <li>Cs137：1.1Bq/L</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Cエリア外堰止水弁「閉」</li> <li>止水材による止水処理</li> <li>堰内水を他の堰へ移送</li> </ul>	止水材充填 コーキング	調整中
H4北	9/11 12:10 9/12 11:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>取付ボルト部</li> <li>漏えい量：約924L程度</li> <li>全β：1200Bq/L</li> <li>Cs134：ND</li> <li>Cs137：5.0Bq/L</li> <li>トリチウム：160Bq/L</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>止水材による止水処理</li> <li>漏えい箇所内側(内堰内)を土のうで囲み、排水</li> <li>内堰と外堰の間に溜まった水の回収</li> </ul>	ポリウレア吹付による止水処理	～9/25
H6	9/14 17:35	<ul style="list-style-type: none"> <li>配管貫通部1箇所</li> <li>堰継ぎ目2箇所</li> <li>漏えい量：約320L程度</li> <li>全β：300Bq/L</li> <li>Cs134：ND</li> <li>Cs137：1.7Bq/L</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>止水材による止水処理</li> <li>堰内水を他の堰へ移送</li> <li>吸水土のうにより吸水して拡大防止</li> </ul>	コーキングおよびポリウレア吹付による止水処理	～9/17

### 3.1 漏えい状況と対策（H5エリア）

- H5エリアでは、拡張した堰と既存堰との堰継ぎ目より漏えいを確認。
- 応急措置として止水材による止水を実施し、漏えいの停止を確認。
- 恒久措置は、コーキングを実施。
- 念のため、既存堰の貫通部も止水を実施。
- 上記の止水完了後、水張りを実施し、漏えいのないことを確認。



## 3.2 漏えい状況と対策（Cエリア）

- 配管貫通部より漏えいを確認
- 応急措置として堰内外面に止水材による止水を実施し、漏えいの停止を確認
- 類似箇所(J1東2箇所)に予防的に対策実施（コーキングの追加）
- 恒久措置として、貫通部に止水材充填及び堰内外面のコーキング処理を実施予定



配管貫通部下部より漏洩  
(鉛筆1本程度の太さ)



応急措置実施状況

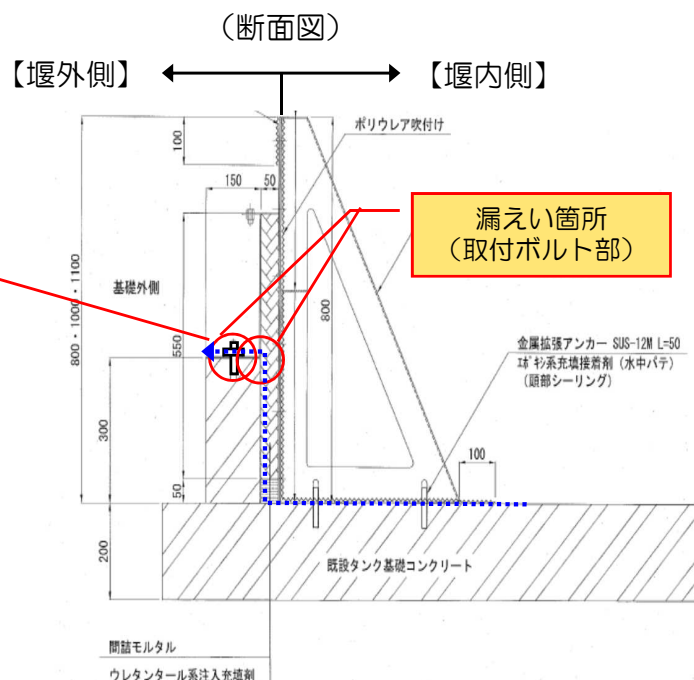
## 3.3 漏えい状況（H4北エリア）

- H4エリアでは、取付ボルト部より漏えいを確認。
- 応急措置として止水材による止水を実施し、上記漏えいの停止を確認。
- 恒久措置は、ポリウレアの吹付けを実施。

【漏えい状況】

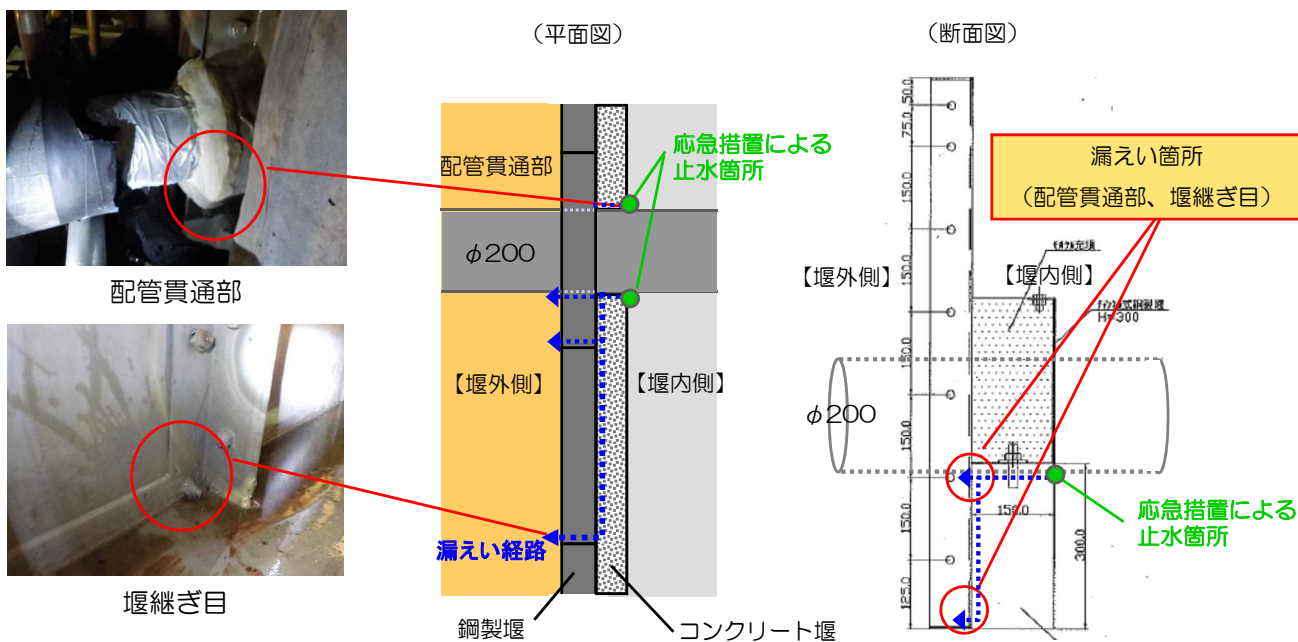


取付ボルト部



## 3.4 漏えい状況（H6エリア）

- H6エリアでは、配管貫通部1箇所、堰継ぎ目2箇所で漏えいを確認。
- 応急措置として止水材による止水を実施し、上記漏えいの停止を確認。
- 恒久措置は、配管継ぎ目の再コーキングならびにポリウレタの吹付けを実施。土のうプールによる水張試験にて全箇所の止水確認し、漏えい停止と判断。



## 4. 今後の対策・水平展開

### 1. 内堰止水の二重化徹底による信頼性向上

- 短期（当該箇所、～2015年10月）：漏えい箇所の応急・恒久措置（コーキング、ポリウレタ吹付等）
- 中期（当該エリア、～2015年12月）：内堰外側からのポリウレタ吹付  
：配管貫通部の再コーキング
- 長期（全エリア、～2016年度末）：内堰外側からのポリウレタ吹付  
：配管貫通部の再コーキング  
：内堰ドライアップ後の内堰内ポリウレタの点検・対策実施

### 2. 保全活動

- 現在実施中の保全活動（点検方法、点検内容、点検頻度）の再検討および見直し

### 3. 雨水対策

- 雨水処理設備の稼働率向上と雨水タンクへの一時貯留による堰内水位の低減  
（2015年9月16日実施計画変更認可）  
（2015年9月24日雨水タンク（一部）※1について使用前検査実施）  
（2015年10月1日～2日雨水タンク（一部）※2について使用前検査実施予定）

注：増設分の雨水処理設備は、運用前に既設設備を停止し配管のつなぎ替えが必要なため、台風シーズン終了後（2015年11月以降）に使用前検査を実施し運用開始予定

※1：雨水処理設備の稼働率向上に寄与するタンク600m<sup>3</sup>×5基と一時貯留のタンク600m<sup>3</sup>×1基  
 ※2：一時貯留のタンク1160m<sup>3</sup>×5基